

2006年度
第3回

小学生のぼうさい探検隊
マップコンクール

SONPO

入選作品集



社団法人 日本損害保険協会

ごあいさつ

昨年は、豪雪や台風、梅雨前線による集中豪雨など多くの自然災害が、日本のみならず世界各地に被害をもたらしました。また、年明け早々には千島列島の東方沖でマグニチュード8.2の大地震が発生し、津波警報が出されました。私ども損害保険業界では、こうした大きな災害に直面するたびに、防災対策の大切さを痛感しております。

防災対策は、世代を超えて受け継がれるべき「財産」です。日本損害保険協会では、防災は人々の意識から、それも次の世代を担う子どもたちの意識から高めていく必要があると考え、2003年からこの「ぼうさい探検隊」活動を本格的に推進しています。

この取り組みは、子どもたちがまちを探検し、防災や防犯に関する施設や設備を発見することで、まちの安全意識と地域への関心を高めていく実践的な安全教育プログラムです。全国の小学校の先生方、地域の防災リーダーの方、そして何より多くの子どもたちに支えられ、本マップコンクールも今年で3回目を迎えました。今回は、全国から実に1,000を超える作品をご応募いただくなど、活動は回を重ねるごとに着実な広がりを見せています。今後は子どもたちだけでなく、先生や保護者の方々、さらには地域全体を巻き込んで「安全」で「安心」な地域社会づくりに寄与できればと考えております。

この活動に賛同いただき、惜しみないご協力を賜りました政府機関、関係団体の皆様、マップコンクールにご参加いただいた方々、そしてフォーラムにご参加いただいた皆様すべてに、あらためてお礼を申し上げます。主催者として、「ぼうさい探検隊」の活動が、ひいては防災意識の高まりが、子どもから親、そして地域へと大きく広がっていくことを心より祈念しております。

2007年2月

社団法人 日本損害保険協会

専務理事 **半田 勝男**

主催

社団法人 日本損害保険協会／朝日新聞社／ユネスコ／
特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク

後援

内閣府／総務省消防庁／文部科学省／警察庁
全国都道府県教育委員会連合会／アジア防災センター
社団法人 日本ユネスコ協会連盟



Contents

目次

フォーラム	2-3
懇親会	4
本審査会	5
入選作品	6-20
応募数	21



フォーラム

2007年1月20日(土)に、東京都のベルサール九段において第3回「ぼうさい探検隊フォーラム」が開かれ、あわせてマップコンクール表彰式が行われました。

表彰式



プレゼンター、入賞の児童・指導された担当者の方々と一緒に記念撮影



インタビューに堂々と答える入賞の児童たち



ぼうさい探検隊賞を受賞した「安楽島キッズ防災探検隊」代表児童の浜口さん



プレゼンターのみなさま



ちょっと緊張気味の入賞されたみなさん



文部科学大臣賞を受賞した「マックスくら たんけんたい」代表児童の山崎さん



わがまち再発見賞を受賞した「金城クローバー」代表児童の石川さん



会場内は満席



入選作品を熱心に見つめる参加者たち



メディア取材に囲まれる「ならまち防災探検隊」指導者の大東さんと代表児童の柏原さん



ロビーでの「ぼうさい探検隊」展示

講演



審査総評を行う室崎審査員長



中野先生による「ぼうさい探検隊授業実践事例」の紹介

懇親会

表彰式の前日(1月19日)には、宿泊ホテル会場(メルパルク東京)で、入賞校・団体の代表児童、保護者、指導された担当者と協会・事務局による懇親会が開かれました。



チームのみんなにも早く見せてあげたいな



ちょっと緊張しながらの自己紹介



他の入賞校・団体みなさんとの親睦も深まりました



なごやかな雰囲気の中、お腹一杯食べました



賞状のもらい方を練習中です



入賞者インタビューのリハーサル風景



審査総評

審査員長 ^{むろさき}室崎 ^{よしてる}益輝 氏 (総務省消防庁消防研究センター所長)

マップから伝わる子どもの「優しさ」と「素直さ」

「子どもは守られる存在」と思われがちですが、災害時には「助ける存在」としても大きな力になります。大切なのは、子どもと大人が協力して「皆の命は皆で守る」という視点だと思っています。

今回の審査では、大人が忘れている子どもの素晴らしさ、特に「優しさ」や「素直さ」を感じました。「みつばち防災探検隊」の活動からは、お年寄りや困った人を何とか助けようという優しい心が感じられます。小学校2年生だけで制作に挑んだ「マックスさくらたんけんたい」のマップには、「怖いお兄さんがいるから近寄らないようにしましょう!」など、子どもらしい素直な気持ちが表現されています。「村櫛防衛隊」は、まちにある山や林などを見て回り、危険なものや役立つものを子どもらしい素直な視点で見えています。

マップづくりで身に付く「知る力」「考える力」「動かす力」

マップづくりを通して「知る力」「考える力」「動かす力」が子どもたちに身に付きます。今年度の作品からは、特に「考える力」と「動かす力」が強く感じられました。

例えば、「ならまち防災探検隊」は奈良という歴史あるまちを調べていくうち、実はとても安全なまちに作られていることに気づいています。「安楽島キッズ防災探検隊」は、大人とコミュニケーションを図ることで、気づくだけでなくさまざまな事柄を学んでいます。「金城クローバー」の作品からは、「こうしたら安全なまちにできる」という大人への提言をしっかりとしています。「伊平もっと知り隊」の作品には、大人にも危険な場所を知らせて「共に助けたい」という気持ちが表れています。

大切にしたい「三つのつながり」

子どもたちには、ぼうさい探検隊活動を通じて「三つのつながり」を作ってほしいと思います。一つは「仲間」とのつながりです。そのつながりは、実際に災害が起きたときにも大きな力となります。二つ目は「大人」とのつながりです。自分の両親と別の地域にいる大人とつながることで、その人たちの知識や知恵を受け取り、次の世代に伝えてほしいと思います。三つ目は「地域」とのつながりです。地域の自然や文化を知ること、地域の素晴らしさを学んでほしいと思います。

子どもたちが「三つのつながり」の輪を広げ、私たちのまちが「安全で安心なまち」になっていくことを心から願ってやみません。

本審査会

全国の小学校や子ども会など224校・団体から1,052作品もの応募があり、厳正なる審査を重ねた結果、入選10作品を決定しました。

応募作品の傾向

全体的な傾向

- ・小学校と地域団体（ボーイスカウト、ガールスカウト、子ども会、自治会など）の応募比率はほぼ同数でした。（小学校53%、地域団体47%）
- ・地震や津波をテーマとした防災マップのほか、不審者が出没しそうな危険な場所を示す防犯マップも多々ありました。

地域性

- ・今回も全国40都道府県から幅広くご応募いただきました。（前回：41都道府県）
- ・県別の応募団体数では神奈川県が22校・団体でトップ、次いで埼玉県と静岡県が20校・団体となっています。ロシアの小学校からもオリジナリティあふれる作品のご応募をいただきました。

学年別

- ・小学校からの応募では、4年生と6年生が最も多く、3年生と5年生がそれに続きます。1・2年生の応募は全体の約5%でした。
- ・団体からの応募の場合は、1年生～6年生までが一緒にまちなか探検を実施して作成したものが多く見られました。

本審査員

むろ さき よし てる 室 崎 益 輝 氏	総務省消防庁 消防研究センター所長（審査員長）
かじ やま しやう じ 梶 山 正 司 氏	文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 課長補佐
あら き じゆんいちろう 荒 木 潤 一 郎 氏	内閣府 企画官（災害予防担当）災害情報調査室長
かな だに よし ひろ 金 谷 裕 弘 氏	総務省消防庁 国民保護・防災部 防災課長
あつ み とも ひで 渥 美 公 秀 氏	大阪大学 コミュニケーションデザイン・センター助教授
から たに とも ひで 柄 谷 友 香 氏	名城大学 都市情報学部助教授
あき やま かず お 秋 山 和 男 氏	文部科学省 国際統括官付ユネスコ協力官
つげ いち ろう 柘 一 郎 氏	朝日新聞社 広報宣伝本部長
よし だ こう じ 吉 田 浩 二 氏	社団法人 日本損害保険協会 常務理事





文部科学大臣賞

秋田県秋田市立飯島小学校

「マックスさくらたんけんたい」

2年生 8名



テーマ

防犯・交通事故

評価されたところ

- ビジュアルも良く情報がわかりやすく整理されている。
- 防犯の視点からしっかりと要望・提言がまとめられている。
- マップ内の各フラップ（ペロ）をめくると、コメントがしっかり記載されているなどマップづくりの工夫が見られる。



みんなで協力しながらマップを作っています



「マックスさくら たんけんたい」のみなさん

●工夫点:

- ・子どもたちを守る活動に取り組んでいる地域の人たちとのかかわりを大切にしたいと考え、ご本人の許可を得た上で顔写真を入れた。
- ・地域の方とコミュニケーションを図っていくきっかけとなるようお願いも加えた。

●提言:

- ・危険を避けるために一人で帰らない、見知らぬ人についていけないなど、普段から言われていることを守っていくことが大切。
- ・自分たちを守るために努力している人への感謝の気持ちを持ち、あいさつをすることで地域の人たちとのかかわりを深める。

●子どもたちの感想:

- ・たくさんの方々が見守ってくれていることに感謝の気持ちを持つことができた。これからは、毎朝見守ってくれている方にあいさつをしていきたいと思った。
- ・人通りの少ない場所が意外と多い。一人で歩くことはできるだけ避けて友達と一緒に帰るなど約束を守ることが犯罪や事故を避けることにつながると思う。

●担当者の感想:

- ・自分たちのまちを防犯という視点から見つめることで、子どもたちは、自分たちでしっかりと命を守る意識を持ってくれたと思う。

VOICE! 入選を聞いて



まき子先生やお母さん達に手伝ってもらい、みんなに役立つぼうさい探検隊マップが作れてよかったと思います。このマップをみんなに見てもらい、安全で安心できる飯島にしたいなと思いました。(山崎 拳さん)



この受賞が子ども達の防犯に対する意識を高め、地域とのつながりを深めることになりました。そして、何事にも全力で挑戦してみようという未来への希望を持つことにもなりました。人生最高の受賞です。ありがとうございました。(佐佐木 摩紀子先生)





防災担当大臣賞

かわらまち
福島県相馬市川原町児童センター

「みつばち防災探検隊」 2・3年生 10名



テーマ

地震

評価されたところ

- お年寄りへのアンケートやインタビューにより、しっかり地域の状況を調べている。
- 発砲スチロールを削って建物を作り、色を塗るなど、立体的な地図になるよう工夫している。
- 災害時の避難順路などしっかり提言がまとめられている。



インタビューをする子どもたち



「みつばち防災探検隊」のみなさん

●工夫点:

- ・お年寄りの安全をテーマに、避難場所を地区別に色分けし、避難ルートを矢印で示すことでマップを見やすくした。

●提言:

- ・避難場所に看板を立てるなど、そこが「避難場所であること」を誰でもわかるようにしてほしい。
- ・自分たちのエリアにも自主防災会を急いで組織してほしい。
- ・お年寄りなど誰にでもわかりやすい“避難マップ”を設置してほしい。

●子どもたちの感想:

- ・自分たちの地区に自主防災会がなかったことにビックリした。
- ・近所にはお年寄りだけの家が多いということもわかり、安全な避難場所マップのチラシを作って配りたい。

●担当者の感想:

- ・マップ作りを通して高齢者に対するやさしさや思いやりの気持ちも芽生え、ひとつのことに協力する意識が強まった。今後も子どもたちの視点からできる防災を考えていきたい。

VOICE! 入選を聞いて



ぼうさい探検隊で、市役所で質問したり、お年寄りにアンケートをとったりして、いろいろなことがわかりました。いつも遊んでもらっているお年寄りのために作った防災マップが、入賞してとてもうれしかったです。
(武澤 舞さん)



毎年、地域のお年寄りとの交流を図っている事から、少しでも恩返しができたらと、お年寄りを守るマップ作りに取り組みました。意外と避難場所を知らない方々が多い事に驚いた子ども達、「できたマップをお年寄りに配布したいね」と夢は広がりました。今回、また入賞できた喜びは、指導員はもとより子ども達にとっても一生忘れられない思い出となりました。本当にありがとうございました。(永井 清美さん)





総務省消防庁長官賞

静岡県浜松市立村櫛小学校

「村櫛防衛隊」 6年生5名



テーマ

防災・防犯・交通事故

評価されたところ

- 危険箇所を調べるだけでなく、自治会長さんにインタビューするなど、しっかりと地域の災害対策を調べている。
- 水害というテーマに絞ってうまくまとめており、地図も見やすく出来ている。
- まちの歴史や地域性、災害の教訓も調べるなど学習効果が高い。



自治会長さんのお話をうかがいました



「村櫛防衛隊」のみなさん

●工夫点:

- ・防災、防犯、交通安全の3つの視点から考えたことを台紙に色分けして地図上に貼った。
- ・まちの歴史や地理について調べ、災害の教訓をまとめた。

●提言:

- ・交通安全面では、カーブミラーや水路わきにガードレールを設置してほしい。
- ・防犯面では、草に囲まれた空き地や空き家が多いので、草を刈ったり、空き家を取り除いてほしい。人気のないところも見回りをしてほしい。

●子どもたちの感想:

- ・地域でまず考えなくてはならないのが「地震が起こった時の津波」だとわかった。
- ・まちの中に防災の設備が多くあり、まちの人たちが災害に備えて努力してくれていることがよくわかった。
- ・マップ作りを通して村櫛のいいところをたくさん見つけた。

●担当者の感想:

- ・子どもたちが、まちを歩き回ったりいろいろな人と話をする中で、地域への関心や愛着が高まり、自分たちの地域のいい所を再発見する機会が持てて楽しい活動になった。

VOICE! 入選を聞いて



ぼくは先生から入賞したと聞いたとき喜びで言葉も出ませんでした。それは夏休みに入ってからの二週間、ほぼ毎日、5人で協力してしあげたマップが全国のコンクールで認められたからです。6年のいい思い出になりました。(田中 智也さん)



炎天下で頑張った子ども達の作品が立派な賞を受けて本当に驚いています。6年生全員で取り組んだ防犯・交通安全マップ作りをもとに、今回は防災の視点から自分達のまちを見直したことで、地域への関心や愛着を一層深めることができました。ありがとうございました。(関 郁代先生)





まちのぼうさいキッズ賞 (ユネスコ提供)

い だいら
静岡県浜松市立伊平小学校

い だいら
「伊平もっと知り隊」 3年生 8名



テーマ

土砂災害

評価されたところ

- 看板設置場所にシールを貼るなどしっかりとマップを通した注意喚起がされている。
- 地域の人たちの水害に対する危機意識が低いことに着目し、提案につなげている。



幼稚園の先生にインタビューしています



「伊平もっと知り隊」のみなさん

●工夫点:

- ・危険箇所には色を塗り、中でも「土石流」、「崖崩れ」の看板設置場所にはシールを貼ることで災害への注意喚起を促した。
- ・地域の方々に日頃の備えを呼び掛ける言葉を入れた。

●提言:

- ・地域住民へのインタビューの結果、危険箇所を表示する看板が設置されているのにもかかわらず、災害への意識が低かった。防災マップを各家庭で掲示してもらうなどして意識啓発を行いたい。
- ・伊平地区が大雨などで大きな被害に遭う可能性があることを地域の人に知ってもらいたい。

●子どもたちの感想:

- ・「土石流注意」や「がけ崩れ」の看板が思ったより多く、驚いた。気をつけたいと思った。
- ・災害はいつ起こるかわからないので、いざという時のために危険な所をチェックしておくことが大事だとわかった。

●担当者の感想:

- ・今回の活動が、身近な地域の学習と自分たちの安全な暮らしにつながることを知り、子どもたちは大変意欲的に取り組んでくれた。
- ・今まで新聞記事でしか土砂災害を知らなかった子ども、自分自身の身近な問題として捉えることができるようになった。このマップを有効活用していきたい。

VOICE! 入選を聞いて



みんなと一緒に作ったマップが賞が入って、とてもうれしかったです。地域の様子を探検して、今まで気付かなかった危険な所がわかりました。これから調べたことをみんなに伝えて安全で住みよいまちにしていきたいです。
(高田 菜那さん)



「ぼうさい探検隊」により、身近な地域に危険箇所があること、防災設備が整えられていることに気付くことができました。受賞を機に、地域に目を向け防災意識を高めてくれることを期待しています。本当にありがとうございました。
(山田 真代子先生)





未来へのまちづくり賞 (朝日新聞社賞)

ガールスカウト日本連盟奈良県第1団

「ならまち防災探検隊」 4・5・6年生 10名



テーマ

火災

評価されたところ

- 奈良という古いまちなみへの愛着とともに、それを守るためには何をすべきかが提言の中によく表れている。
- 歴史背景についてもよく調べられており、まちの紹介としても十分使えるマップに仕上がっている。



まちの防災への取組みについてインタビューしています



「ならまち防災探検隊」のみなさん

●工夫点:

- ・年齢の異なる子どもたちのグループなので、一人ひとりが責任をもって積極的に調べることができるよう、地図係・写真係・設備を見つける係など役割分担を工夫した。

●提言:

- ・高齢者世帯が多いので、日ごろから隣近所で呼びかけることが大切。
- ・自分たちにもできる防災から挑戦しよう、そして、私たちの大事な世界遺産のあるまちを大切にしていこう。

●子どもたちの感想:

- ・まちの人が協力して歴史あるまちを大切にしているのがわかった。
- ・一人暮らしのお年寄りも多いので、みんなの協力が大事だと思った。
- ・お寺にはたくさんの防災設備があって、文化財を守っていることがよく分かった。

●担当者の感想:

- ・ならまちに古くから住んでいる方々に話を聞くことによって、防災だけでなく昔の人たちの思いも感じることができ、良い機会となった。
- ・今回は、1つのお寺しか探検できなかったが、文化財を守る設備を知ることができ、奈良にある多くの社寺を訪れた時にも関心をもってくれると思う。

VOICE! 入選を聞いて



受賞を聞いてとてもびっくりしました。ならまちを歩き回ったり、自治会の人に話を聞いたり大変だったけど、まちの人たちが防災のために工夫していることがわかりました。今まで以上にならまちを大切にしていきたいと思いました。(柏原 沙織さん)



自分達の地域に根ざした活動で入賞できたことをうれしく思います。古都奈良に残る大切な遺産をどのように守ってこられたのかを調べていくうちに、このまちで暮らす人々の思いがわかってきたようです。今回の探検をきっかけに、より一層自分達のまちや世界遺産を大切に守っていかうとする意識が高まってくれることと思います。(大東 暁美さん)





ぼうさい探検隊賞 (日本損害保険協会賞)

あらしま
三重県鳥羽市安楽島子ども会

あらしま
「安楽島キッズ防災探検隊」 4・6年生 6名



テーマ

津波・防災無線

評価されたところ

- アンケートを利用して、防災無線の実態についてよく調べている。
- 周囲の大人を積極的に巻き込みながら取り組んでおり、地域ぐるみの安全・安心活動につながっている。



災害時に必要なものを選んでみよう



「安楽島キッズ防災探検隊」のみなさん

●工夫点:

- ・建物の内外 50 箇所防災無線放送の聞こえ方の調査を行った。聞こえ方についてそれぞれ色別のマークで表し、ひと目で分かるようにした。

●提言:

- ・防災無線の放送が聞こえなかった所は、聞こえるようにしてほしい。
- ・堤防のひび割れや傾いているところの修理、海水浴客への避難場所を表示してほしい。
- ・新しくできた高台への避難路（急な上り坂）に手すりや街灯がほしい。
- ・防災倉庫が低いところにあるので、高いところに置いてほしい。

●子どもたちの感想:

- ・探検の途中で何度も「いま地震が起きたらどこへ避難するか？」を話し合ったので、避難場所やルートがよくわかった。
- ・災害時に必要なものを買いにいった時、何を買ったら良いか悩んだが、おもしろかった。
- ・防災無線の聞き取りについてはわかりやすくてきたと思うのでまちの人にも見てほしい。

●担当者の感想:

- ・防災無線の聞き取り調査では地域の人たち、子どもたちそれぞれの防災意識の向上に役立ったと思う。

VOICE! 入選を聞いて



みんなで聞き取り調査をしたことや、まちを歩いてわかったことをマップにまとめることが難しかったです。「防災無線が聞こえにくい」と言う人が多くいることがわかり、みんなで作ったマップが役に立ってほしいなと思います。
(浜口 弘樹さん)



昨年の入選をきっかけに、地元の自主防災会もタウンウォッチングに取り組むようになりました。とても良い刺激になっているようです。「防災無線が聞こえますか？」の結果など、問題点はまち全体の防災活動に役立てていきたいと思えます。ありがとうございました。(浜口 敬司さん)





わがまち再発見賞 (日本災害救援ボランティアネットワーク賞)

かなぐすく 沖縄県那覇市金城児童館

かなぐすく 「金城クローバー」 3・4年生 3名



テーマ

防犯・交通事故

評価されたところ

- 綴じ込み式の記事を入れるなどマップづくりに工夫が見られ、わかりやすくまとまっている。
- 自分たちの意見のほか保護者の意見なども提言としてまとめており、提案性が高い。



暑いなか、一生懸命に調べました



「金城クローバー」のみなさん

●工夫点:

- ・子どもたちの防犯に関する意見を多く取り入れた。
- ・記事を綴じ込み式にしたり、キャラクターを使用したりと視覚的に訴える仕上げをした。

●提言:

- ・人通りが少ない地域でのパトロールや街灯の設置、外から見える駐車場を増やすなど地域の危険箇所を改善してほしい。
- ・背の高い草が繁っている場所では、不審者のほか、ハブなどの危険もあるので、草刈りをしてほしい。

●子どもたちの感想:

- ・まちなか探検は暑くて大変だったけど、楽しかった。
- ・下書き、清書などで地図を3回も描いたので地理の勉強にもなった。

●担当者の感想:

- ・子どもたちは、まちなか探検の後、どうすれば危険を回避できるかを話し合うようになった。
- ・半期に渡るマップ活動で、警察署、NPO、小学校、民生委員、大型店とのネットワークができ、安全を守るための取組みが進んでいる。
- ・児童館にとっても以前にも増して防犯体制を確立しようという姿勢が強まり、地域参加を呼びかけるイベントを多く企画するようになった。

VOICE! 入選を聞いて



最初マップ作りをする時、地図などが苦手なので、「ちゃんとできるかな。」とっていました。でも思っていたより簡単でした。入賞の知らせを聞いた時は「そんなにすずいものだったかなあ。」と思いました。家族に報告したら「いつかやると思っていた。」と言われました。(石川 華園さん)



今年度初めてマップ活動に取り組み、このような大きな賞をいただいたので驚いています。子ども達が次々に良いアイデアを出したのでそれらをストレートに表現したことが入賞に結びついたような気がします。(千葉 早智子さん)





審査員特別賞

茨城県常陸大宮市立大宮西小学校「西小安全守り隊」



審査員特別賞に入選したことを聞いて、とてもうれしいです。アトムワールドやガンマーフィールドの説明会にチームのみんなと参加し、調べたことを全校児童や地域の人にも知らせることができてよかったです。
(橋本 洋伸^{ひろのぶ}さん)

子ども達と楽しく防災マップ作りをして、それが賞につながったことをうれしく思います。子ども達には「防災」という視点で、自分達の住んでいるまちを見つめる目が芽生えました。さらに大きく育ててくれればと願います。
(永井 ゆわえ先生)



評価されたところ

- 原子力発電所のある自分たちのまちについて詳細に調べており、教育効果性が非常に高い。
- 家庭や地域での防災に関する発見が数多く盛り込まれている。

千葉県我孫子市立布佐南小学校「洪水探検隊」



初めての防災学習で、分からなかった所、きんちょうした場面などがあり、思うようにいかない時もありました。けれど、みんなで協力して作った防災マップが審査員特別賞に入れてとてもうれしいです。いい経験ができました。
(宮本 宙輝^{みちあき}さん)

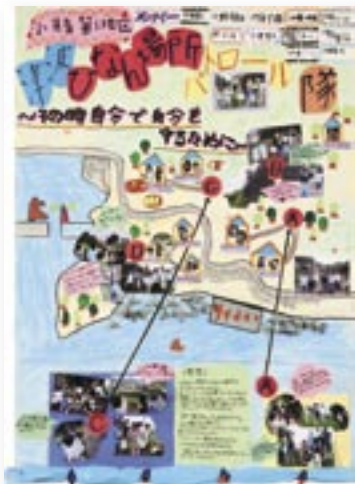
子ども達は「ぼうさい探検隊」をきっかけに、自分達の命を守るために真剣に防災学習に取り組んできました。この受賞を誇りに、さらに高い意識をもって防災に取り組み、地域へも働きかけていくことを期待しています。
(中野 直美先生)



評価されたところ

- テーマを水害にしぼり、インタビューと施設見学によって、しっかりと調べられている。
- 情報の質も高く、よく調べよく考えながらマップづくりをしている様子がわかる。

宮城県気仙沼市立中井小学校小鯖第1地区子ども会「小鯖第1地区津波ひなん場所パトロール隊」



賞をとれて、とてもうれしいです。夏の暑い日、みんなで集まり、努力したかいがありました。マップには、みんなの気持ちがたくさんつまっているのでよかったです。協力してくれた友達とお母さん方に感謝の気持ちでいっぱいです。
(伊藤 依里^{いり}さん)

防災という意識をもって、改めて自分達の住んでいる地区を探検してみると、普段は気付かない「発見」がたくさんありました。一人ひとりが感じたことを、みんなで試行錯誤しながらまとめ上げたこのマップが入選したことをとても嬉しく思っています。ありがとうございました。
(小野寺 里美^{さとみ}さん)



評価されたところ

- 地図の上に津波を模した水色のビニールを被せるなど、オリジナリティあふれる工夫が見られた。
- 自分たちの生活圏における安全な場所の見極めがうまくできている。

応募数

第3回「ぼうさい探検隊マップコンクール」には、全国から224校・団体(小学校118、団体106)、1052作品の応募がありました。 ※前回の応募数は、219校・団体(小学校109、団体110)、782作品

< 応募一覧 >

都道府県	応募団体数	応募作品数	学校・団体名
神奈川県	22	62	ボーイスカウト横浜第132団カブスカウト隊、川崎市麻生こども文化センター、ガールスカウト神奈川県第101団、相模原市立富士見小学校、ガールスカウト神奈川県第100団、横浜市立星川小学校、ガールスカウト神奈川県第4団、ガールスカウト神奈川県第93団、ガールスカウト神奈川県第79団、ガールスカウト神奈川県第41団、ガールスカウト神奈川県第102団、特定非営利活動法人I LOVE つづき、ガールスカウト神奈川県第85団、ガールスカウト神奈川県第53団、ガールスカウト神奈川県第92団、ガールスカウト神奈川県第24団、ガールスカウト神奈川県第66団、ガールスカウト神奈川県第22団、ガールスカウト神奈川県第25団、ガールスカウト神奈川県第82団、ガールスカウト神奈川県第7団、ボーイスカウト川崎第43団カブスカウト隊
埼玉県	20	250	越谷市立宮本小学校、草加市立小山小学校、川口市立慈林小学校、川越市立上戸小学校、草加市立栄小学校、草加市立新里小学校、草加市立新栄小学校、上尾市立大石南小学校、草加市立瀬崎小学校、草加市立新田小学校、川越市立霞ヶ関南小学校、深谷市立深谷西小学校、行田市立須加小学校、富士見市立つるせ台小学校、新座市立第四小学校、川越市立月越小学校、坂戸市立坂戸小学校、八潮市立八幡小学校、草加市立長栄小学校、和光市立第三小学校
静岡県	20	86	ガールスカウト静岡県第78団、黒田学童少年少女消防クラブ、静岡市立清水岡小学校、浜松市江西地区少年消防クラブ、静岡市立田町小学校、浜松市駅南地区少年消防クラブ、可美地区BFC少年クラブ、浜松白旗地区少年消防クラブ、和地地区少年消防クラブ、河輪地区少年消防クラブ、浜松市萩丘地区少年消防クラブ、はやぶさ少年消防クラブ、浜松市立村楠小学校、浜松市立伊平小学校、静岡市立森下小学校、牧之原市立川崎小学校、袋井市立浅羽北小学校、ガールスカウト静岡県第9団、静鉄スカウト団、沼津市立第二小学校
東京都	16	122	江東区立東川小学校、杉並区立桃井第一小学校、墨田区立中川小学校、江戸川区立西小岩小学校、荏原消防少年団、世田谷区立代沢小学校、豊島区千早小学校PTA校外生活部、東村山市立久米川小学校、杉並消防少年団、千代田ボランティアセンター、新宿区立戸塚第一小学校・早稲田小学校、三鷹市立第三小学校、奥多摩町立氷川小学校、PSIジュニアパトロール、足立区立花畑小学校、八王子市立桐田小学校
茨城県	13	68	桜川市立榎穂小学校、土浦市立穴塚小学校、坂東市立中川小学校、稲敷郡阿見町立本郷小学校、全国曹洞宗青年会ボランティア委員会防災寺子屋、筑西市立大田小学校、つくばみらい市社会福祉協議会、取手市つつじが丘自治会自主防災会、常陸太田市立都戸小学校、常陸大宮市立大宮西小学校、城里町社会福祉協議会、桜川市社会福祉協議会、高萩市立松岡小学校
愛知県	12	51	豊橋市立つつじが丘小学校、豊橋市立松葉小学校、汐田校区子ども会、半田市板山ふれあいセンター、豊田市立五ヶ丘小学校、おひさま児童クラブ、名古屋市正木消防団KFG、豊田市立足助小学校、名古屋市立柳小学校、ガールスカウト愛知県第90団、岡崎市立千万町小学校、千早KFG
千葉県	11	36	ボーイスカウト市川第8団、ボーイスカウト市川第6団カブ隊、ボーイスカウト市川第5団、ボーイスカウト浦安第1団カブスカウト隊、我孫子市立布佐南小学校、市川市立稲越小学校、松戸市立松飛台小学校、習志野市立秋津小学校、千葉市立打瀬小学校、千葉市立海浜打瀬小学校、千葉市立美浜打瀬小学校
沖縄県	10	19	ガールスカウト沖縄県第16団、ガールスカウト沖縄県第5団、那覇市立古蔵小学校、那覇市金城児童館、竹富町立小浜小学校、真和志児童クラブ、ポプラ福祉会那覇市古波蔵児童館、西崎団地子ども会、那覇市立国場児童館チャレンジクラブ、与那原小学校PTA新島支部
石川県	10	11	金沢YMCA、崎浦地区子ども会連合会、田鶴浜子ども消防クラブ、西堀川町子ども会、夕日寺小チーム、浅野町小チーム、小坂小チーム、金沢市米丸小、辻・長沖・山口チーム、津幡町立大白台小学校
宮城県	7	32	名取市立不二が丘小学校、東北福祉大学ボランティアセンター、古川市中里申和会+中里四東・西子供会、白石市南町自治会+南町地区小学校PTA、石巻市上大二町内会+釜小学校PTA上大二支部、仙台市立南小泉小学校若林区木ノ下地区区子供会少年消防クラブ、気仙沼市立中井小学校小鱈第1地区子ども会

都道府県	応募団体数	応募作品数	学校・団体名
兵庫県	7	30	新温泉町立熊谷小学校BFC、ガールスカウト兵庫県第22団、明石市立明石小学校、姫路市立峰相小学校、尼崎市立難波小学校、明石市立大観小学校連合子供会、神戸市立六甲アイランド小学校
岡山県	7	7	玉島小学校少年消防クラブ、宮浦婦人防火クラブ、高梁市立平川小学校、乙島小学校少年消防クラブ、琴浦西小学校少年消防クラブ、味野小学校少年消防クラブ、川入小学校少年消防クラブ
福井県	5	16	あわら市吉崎小学校、福井市清水南小学校、坂井市立三国北小学校、吉田郡永平寺町松岡小学校、あわら市本荘小学校
京都府	5	15	太秦こどもぼうさい土曜塾、京都市立砂川小学校、京都市立藤城小学校、宇治市立平盛小学校、ガールスカウト京都府第11団
北海道	5	8	上富良野町少年消防クラブ、今金町こども会連合会、八雲町地域教育力活性化推進協議会、遊びの達人教室in新得、北海道千歳市支笏湖小学校
広島県	4	24	呉市立明德小学校、広島市立古市小学校、安芸高田市立可愛小学校、尾道市立栗原小学校
大阪府	4	16	ガールスカウト大阪府第78団、大東市立四条小学校、豊中市立千成小学校、ガールスカウト大阪府第21団
和歌山県	4	8	有田郡広川町立広小学校、きのくにふれあい子どもセンター実行委員会、ガールスカウト和歌山県第15団、橋本市立橋本小学校
岐阜県	4	7	高山市立日和田小学校、下呂市立総島小学校、恵那市大井町学頭地区学頭子供会、中津川市立南小学校
滋賀県	3	38	行畑地区連合こども会、大津市立中央小学校、大津市立唐崎小学校
三重県	3	16	名張市立梅が丘小学校、度会郡大紀町立錦小学校、鳥羽市安楽島子ども会
奈良県	3	6	笠縫地区みつばち子ども会、御所市立秋津小学校、ガールスカウト奈良県第1団
福島県	3	3	ガールスカウト福島県第5団・第25団、相馬市川原町児童センター、相馬市立中村第二小学校放課後児童クラブ
鹿児島県	2	17	出水市立西出水小学校、鹿児島市立吉野小学校
徳島県	2	16	美波町立日和佐小学校、阿波市立林小学校
岩手県	2	14	盛岡市立大慈寺小学校、盛岡市南仙北二・三丁目町内会子供会
島根県	2	14	出雲町立揖屋小学校、大塚町子ども会
高知県	2	11	ボーイスカウト高知第8団カブ隊、高知市立旭小学校
佐賀県	2	8	伊万里青年会議所、知恩福祉会
秋田県	2	6	南秋田郡五城目町立五城目小学校、秋田市立飯島小学校
山口県	2	3	大島郡周防大島町立和田小学校、大島郡周防大島町立屋代小学校
新潟県	1	17	上越市立春日新田小学校
長崎県	1	4	わがまちたんけん防災活動inこうやぎ
長野県	1	3	松本市立岡田小学校
栃木県	1	2	ボーイスカウト鹿沼第4団
青森県	1	1	青森市立篠田小学校
大分県	1	1	境川校区連合子ども会
宮崎県	1	1	清武町立清武小学校木原舎子ども会
山形県	1	1	中野新田子供会
山梨県	1	1	加納岩少年消防クラブ
ロシア	1	1	School No. 1129

「ぼうさい探検隊」とは…

子どもたちが楽しみながらまちを探検し、まちにある防災や防犯の施設・設備を発見してマップにまとめる活動のことです。マップ作成後は、発表を通してまちの安全・安心を振り返ります。

子どもたちの「防災意識が高まる」だけでなく、地域の人々との交流が深まり、コミュニティの強化にもつながります。



マップづくり



まち歩き

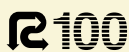


発表

社団法人 日本損害保険協会

〒101-8335
東京都千代田区神田淡路町2-9
URL <http://sonpo.or.jp/>

(お問い合わせ先) 生活サービス部
TEL: 03-3255-1294
FAX: 03-3255-1236



古紙パルプ配合100%再生紙



植物性大豆インキ



JQA-EM1791
本部及び関東支部

かけがえない環境と安心を守るために
(社)日本損害保険協会はISO14001を認証取得しています。

社団法人 日本損害保険協会 会員会社一覧

あいおい損保
朝日火災
共栄火災
ジェイアイ
スミセイ損保
セコム損害保険
セゾン自動車火災
ソニー損保

損保ジャパン
そんぽ24
大同火災
東京海上日動
トア再保険
日新火災
ニッセイ同和損保
日本興亜損保

日本地震
日立キャピタル損保
富士火災
三井住友海上
三井ダイレクト
明治安田損保

(22社50音順、2007年2月現在)